

「節電対策」は、間違いか？

今年1年を振り返ってみると、話題になったことばには、東日本大震災に関連したものが多い。そのひとつに「節電対策」がある。節電のため、白熱電球をLED電球に交換したり、冷暖房の設定温度を控えめにしたりすることを指すが、中には、このことばに違和感を持つ人もいる。

「〇〇対策」の〇〇には、「暴力団対策」「紫外線対策」などのように、本来【好ましくないもの】【克服すべき対象】が入るはずだという発想が、その違和感のもとになっているようだ。「〇〇対策」とは、「〇〇の害が及ぶのを避けるため」あるいは「〇〇に打ち勝つため」の「対策」なのであり、〇〇に【実行すべき目標】が入るのは、おかしいという考え方である。この考え方にのっとって「節電対策」を強引に解釈すれば、例えば、夏場、節電のため冷房の入っていない電車の中で、暑さをしのぐと首のまわりに保冷タオルを巻くことこそ、まさに「節電対策」ということになる。

「節電対策」以外にも、こうした表現は数多くある。「防犯対策」や「防寒対策」、「セキュリティ対策」など、これらは、いずれも、「暴力団対策」「紫外線対策」の使い方とは異なっている。とりわけ目立つのは、「防～対策」「省～対策」「節～対策」などのパターンだ。すべてというわけではないが、国や自治体など、行政機関が使い始め広

がったケースが多いと思われる。

「節電対策」に違和感を持つ人たちの主張に、もし律儀に従うのであれば、防犯対策は「犯罪対策」、防寒対策は「寒さ対策」、セキュリティ対策は「コンピューターウイルス対策」などにそれぞれ置きかえなくてはならない。それにならえば「節電対策」は「電力不足対策」とでも言うことになるのだろうか。

しかし、「節電対策」と「電力不足対策」では、その言わんとするところには、かなり違いがある。「具体的にこんなことをすれば、節電につながりますよ!」という呼びかけのニュアンスが、良くも悪しくも「節電対策」には、含まれていないだろうか。

このような使われ方がされる要因はいくつかありそうだ。「〇〇(を押し進めるための)対策」を省略したと考えることもできるし、「対策」の意味を「対応策」から、より範囲が広い「方策」の意味でとらえていると考えることもできるかもしれない。いずれにせよ、これを間違いだとするのは、いささか無理があるだろう。

この種の「〇〇対策」について、多くの人には、「安全対策」に見られるよう、定着した用法ととらえ、気に止めていない。ただ一方で、中には誤用だと強く主張する人もいる。異なる受け止め方がある以上、このことばの取り扱いには、慎重な「対策」が必要かもしれない。

田中伊式(たなか いしき)